



平成26年11月25日

各 位

会 社 名 関東電化工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 山下史朗  
(コード番号 4047 東証第1部)  
問合せ先 人事総務部専任部長 長沼英貴  
(TEL. 03 - 3257 - 0371)

平成27年3月期 第2四半期決算説明会資料


当社では、本日11月25日、機関投資家・証券アナリスト向けに平成27年3月期 第2四半期決算説明会を開催いたします。

平成27年3月期 第2四半期決算の概要、今後の業績見通しについて説明いたしますが、その資料を添付いたします。

以 上

平成27年3月期  
第2四半期決算説明会

---

 関東電化工業株式会社  
平成26年11月25日

1

説明内容

---

1. H27/3月期 第2四半期決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

※増減率を除き、表示単位未満は切り捨てて表示

## 事業セグメント

名 称		内 容
基礎化学 品事業	無機製品	か性ソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、塩化アルミニウム等
	有機製品	トリクロールエチレン、パークロールエチレン、塩化ビニリデン、シクロヘキサノール等
精密化学 品事業	フッ素系 製品	六フッ化硫黄、四フッ化炭素、三フッ化メタン、六フッ化エタン、三フッ化窒素、ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン、八フッ化プロパン、六フッ化タングステン、四フッ化ケイ素、三フッ化塩素、八フッ化シクロブタン、五フッ化ヨウ素、モノフルオロメタン、硫化カルボニル、六フッ化リン酸リチウム等
鉄系事業	鉄系製品	キャリアー、マグネタイト、顔料、鉄酸化物等
商事事業	関電興産(株)	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店業務等
設備事業	(株)上備製作所	工場プラント建設、工場設備保全工事等

関東電化工業株式会社

3

## 関東電化グループ(連結子会社)

(単位:百万円)

	資本金	出資 比率%	H26/9末 個別売上高	対前年同期 増減	主要な事業内容
関電興産(株)	10	100.0	2,742	189	化学工業薬品の販売および容器整備、保険代理店
(株)上備製作所	120	49.4	1,481	△557	化学工業用設備の製作・加工・修理
森下弁柄工業(株)	27	52.9	471	24	鉄酸化物の製造販売
関東電化KOREA (株)	2 億ウォン	90.0	3,360	725	フッ素系製品の販売
台湾関東電化股份 有限公司	7 百万NTドル	100.0	1,459	215	フッ素系製品の販売
合計			9,515	597	

関東電化工業株式会社

4

## 連結決算のポイント

(単位: 億円)

	H25/9	H26/9	差額
売上高	174	180	5
営業利益	4	12	8
当期純利益	4	11	7

### (1) 売上高増加 (+5億円)

- ・基礎化学品事業部門は、ほぼ前年同期並(+0.5億円)
- ・精密化学品事業部門は、販売価格が堅調に推移するなか、販売数量が増加(+10億円)
- ・鉄系事業(+0億円)、商事事業(+0.9億円)、設備事業(△6.3億円)

### (2) 営業利益改善 (+8億円)

- ・売上高の増加や費用の削減により改善
- ・基礎化学品事業部門(+0.7億円)
- ・精密化学品事業部門(+8億円)
- ・鉄系事業(△0億円)、商事事業(+0.4億円)、設備事業(△0.7億円)

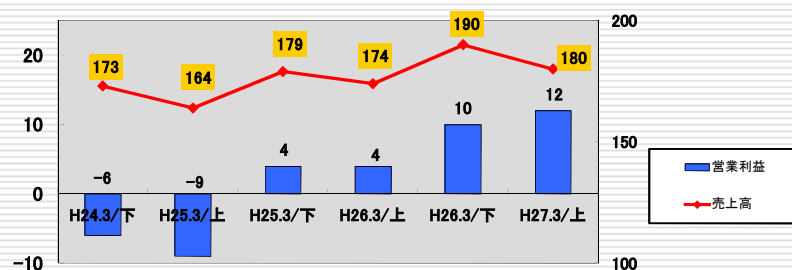
関東電化工業株式会社

5

## 過去3年間の半期業績の推移

(単位: 億円)

	H24年3月期		H25年3月期		H26年3月期		H27年3月期
	下期	上期	下期	上期	下期	上期	上期
売上高	173	164	179	174	190	180	180
営業利益	△6	△9	4	4	10	12	12



関東電化工業株式会社

6

## 基礎化学品事業部門

(単位: 億円)

	H25/9	H26/9	差額
売上高	32	32	0.5
営業利益	△1	△1	0.7

- ・売上高は、か性ソーダは販売数量は減少したものの価格修正効果により増収、塩酸は販売価格の低下により減収となった。トリクロールエチレンおよびパークロールエチレンは販売数量減により減収、塩化ビニリデンは販売数量増により増収となった。全体では前年同期にくらべ微増となった。
- ・営業利益は、販売数量の減少や原燃料価格の上昇等があったものの、価格修正効果により、前年同期に比べ赤字幅が縮小した。

関東電化工業株式会社

7

## 精密化学品事業部門

(単位: 億円)

	H25/9	H26/9	差額
売上高	103	114	10
営業利益	2	10	8

- ・三フッ化窒素および六フッ化タングステンは、販売価格が堅調に推移するなか、販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となった。
- ・電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、販売数量は増加したものの販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となった。
- ・営業利益は、フッ素系特殊ガスが販売価格が堅調に推移するなか、販売数量の増加により、前年同期に比べ増益となった。

関東電化工業株式会社

8

## 鉄系・商事・設備事業部門

(単位: 億円)

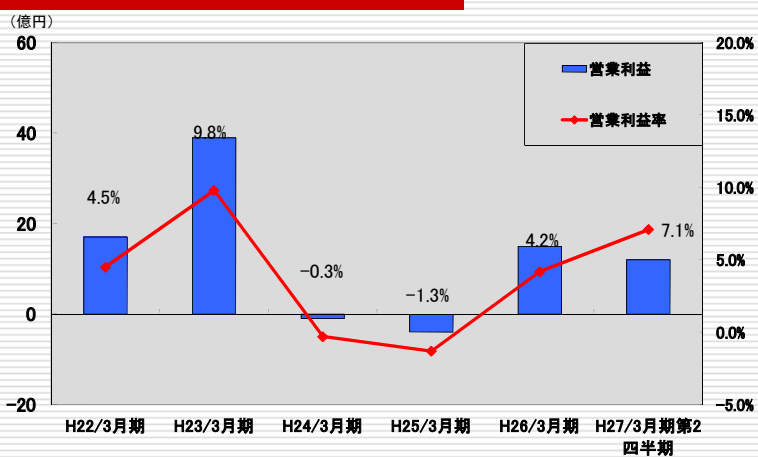
	H25/9	H26/9	差額
売上高	38	33	△5
営業利益	3	3	△0.4

- ・鉄系事業は、キャリアーの販売数量が減少したものの、鉄酸化物の販売数量が増加し、前年同期に比べ増収減益となった。
- ・商事事業は、連結子会社である関電興産の化学工業薬品の販売が増加したことにより、前年同期に比べ増収増益となった。
- ・設備事業は、連結子会社である上備製作所における請負工事の減少により、前年同期に比べ減収減益となった。

関東電化工業株式会社

9

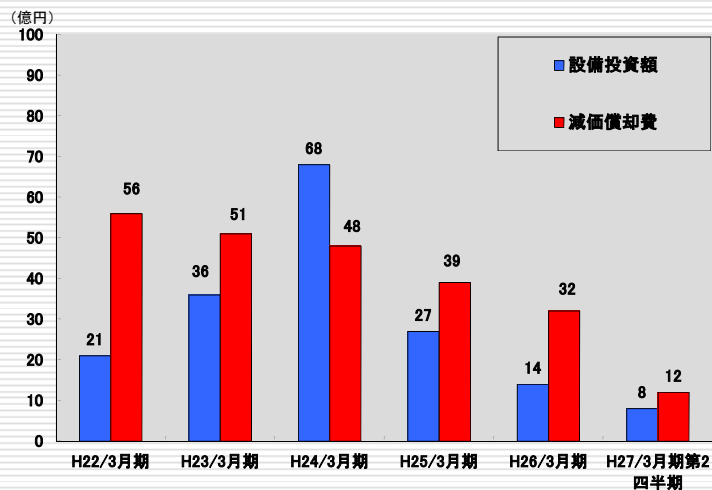
## 営業利益と営業利益率の推移(連結)



関東電化工業株式会社

10

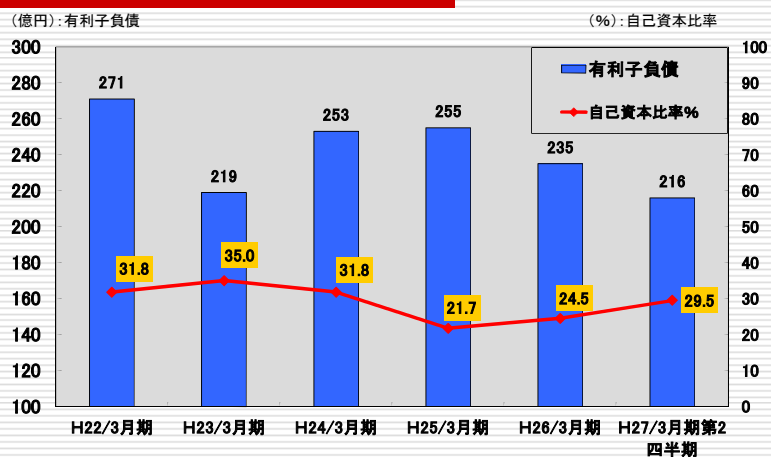
## 設備投資・減価償却費の推移(連結)



関東電化工業株式会社

11

## 有利子負債・自己資本比率の推移(連結)



(注)H25/3月期以降はリース債務を含む

関東電化工業株式会社

12

## 説明内容

1. H27/3月期第2四半期決算の概要
2. 業績の見通し・今後の動向

## セグメント別業績予想(連結)

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	H26/3 実績	H27/3 当初見込	修正後 見込	H26/3 実績	H27/3 当初見込	修正後 見込
基礎	67	69	69	△3	1	0
精密	215	225	236	11	11	23
その他※	81	72	69	6	4	5
合計	365	366	374	15	16	28
設備投資	14	14	17	※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。 ※為替レート見込:100円/\$		
減価償却	32	26	26			
研究開発費	8	9	10			



## セグメント別業績(連結) 上期当初予想と実績の差

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	上期 当初見込	上期 実績	上期差額	上期 当初見込	上期 実績	上期差額
基礎	32	32	0	△1	△1	△0
精密	108	114	6	3	10	7
その他※	35	33	△1	2	3	1
合計	175	180	5	4	12	8

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

関東電化工業株式会社

15

## セグメント別業績予想(連結) 下期当初予想との差

(単位:億円)

	売上高			営業利益		
	下期 当初見込	下期 見直し	下期差額	下期 当初見込	下期 見直し	下期差額
基礎	37	36	△0	2	1	△0
精密	117	121	4	8	12	4
その他※	37	35	△1	2	1	△0
合計	191	193	2	12	15	3

※その他には、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。

関東電化工業株式会社

16

## セグメント別業績予想(連結) 上期下期比較

(単位:億円)

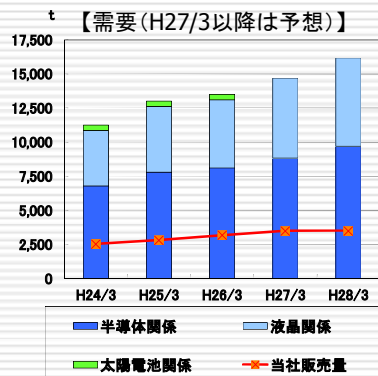
	H27/3売上高			H27/3営業利益		
	上期実績	下期見直し	差額	上期実績	下期見直し	差額
基礎	32	36	3	△1	1	2
精密	114	121	7	10	12	1
その他※	33	35	2	3	1	△1
合計	180	193	13	12	15	2
設備投資	8	8	0	※その他は、鉄系事業、商事事業、設備事業および連結調整を含みます。		
減価償却	12	13	0			
研究開発費	4	5	0			

関東電化工業株式会社

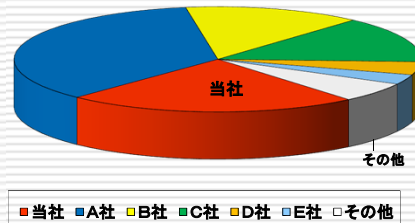
17

## —主な製品の見通し— 三フッ化窒素(NF3)

- 半導体・液晶製造プラズマCVD装置のチャンバークリーニングガス。
- 製造能力 3,500t/年



【現在のシェア予想】  
当社シェアは約4分の1



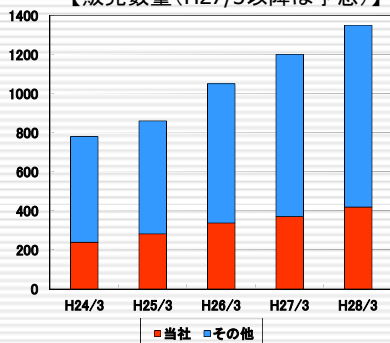
関東電化工業株式会社

18

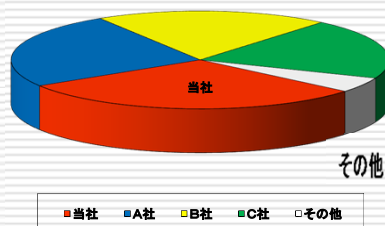
## —主な製品の見通し—六フッ化タンゲステン(WF6)

- 半導体用配線材料ガス。
- 製造能力は300t/年。

【販売数量(H27/3以降は予想)】



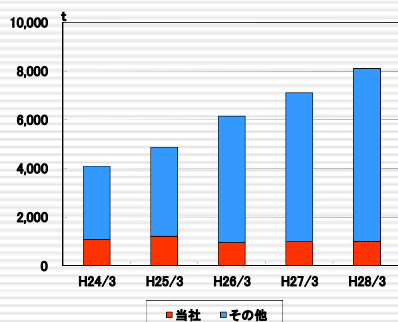
【現在のシェア予想】  
当社シェアは約3割



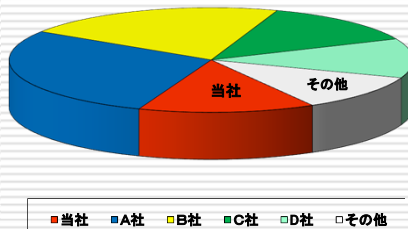
## —主な製品の見通し—六フッ化リン酸リチウム(LiPF6)

- リチウムイオン二次電池の材料である電解質。
- 今後、EV等の車載向けや大型蓄電池向けの需要が期待される。
- H24年度に製造能力を2,400t/年とした。

【販売数量(H27/3以降は予想)】

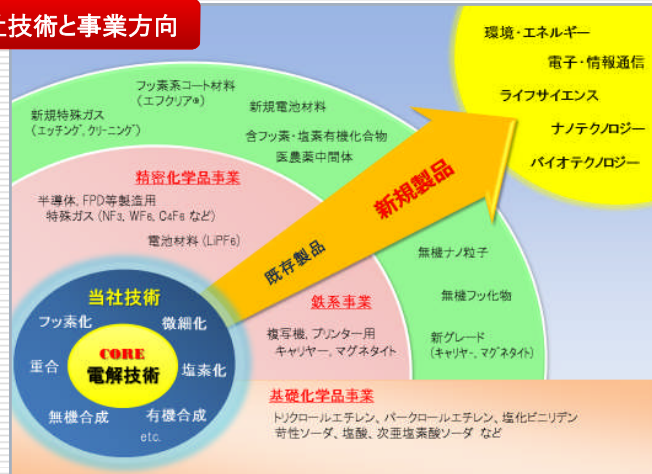


【現在のシェア予想】  
当社シェアは2割弱



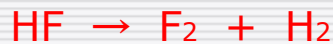
# 当社の目指す事業方向

## 当社技術と事業方向



# フッ素化技術を利用した製品の開発①

当社コア技術  
HF電解



世界有数の規模と高品質のF<sub>2</sub>

HF電解技術を極め、次世代製品の開発促進

F<sub>2</sub>を利用した既存製品

特殊ガス  
 ・NF<sub>3</sub> ・C<sub>4</sub>F<sub>6</sub>  
 ・SF<sub>6</sub> ・C<sub>4</sub>F<sub>8</sub>  
 ・WF<sub>6</sub> etc.  
 ・CF<sub>4</sub>  
 ・ClF<sub>3</sub>

電池材料  
 ・LiPF<sub>6</sub>  
 その他  
 ・IF<sub>5</sub>

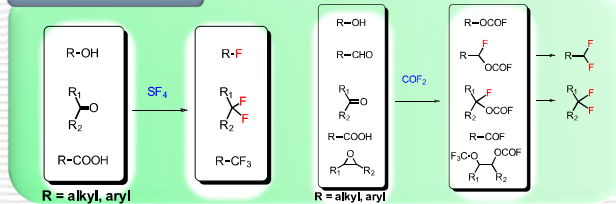


次世代製品

環境・エネルギー関連  
 電子・通信材料関連  
 ライフサイエンス関連  
 ナノテクノロジー関連  
 バイオテクノロジー関連

## フッ素化技術を利用した製品の開発②

### フッ素化反応例



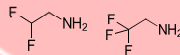
フッ素化技術を中心に、蓄積されたハロゲン化技術を利用して受託合成などを承っています。

#### 特徴

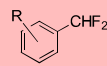
F<sub>2</sub>による直接フッ素化反応、SF<sub>4</sub>などの特殊フッ素化試薬を用いた反応などで実施可能

### 含フッ素有機化合物 開発品例

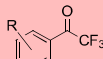
#### フルオロエチルアミン類



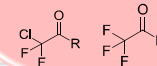
#### シフロロメチルベンゼン類



#### トリフルオロアセトフェノン類



#### ハロゲン化アセチル類



etc.

関東電化工業株式会社

23

## 高付加価値製品の開発

- 医農薬中間体、電子材料
- 新規無機材料(無機ナノ粒子)
- 半導体用次世代先端ガス
- 新規電池材料(添加剤)
- 10年後を見据えたコア技術の創出

創造的開発型企业へ

24

## 注意事項

---

- 本資料は、金融商品取引法等のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なります。